

授業づくり	重点	ねらいが明確な授業、ノート指導の徹底とICT機器の活用。	中間評価	ねらいを明確な授業を全学年で意識している。ノート指導を継続。ICT機器の活用はできている。	最終評価	・「ねらいの提示」と「振り返り」についてはすべての学級において定着した。タブレット端末の活用も進んでいた。
		落ち着いた環境整備と学習・生活規律の徹底。		「きくきくドリル」を9月より毎週火曜朝に実施し、「聞く」力、集中力の向上が見られた。		・「きくきくドリル」は3学期より毎月第一火曜日に実施。聞くことに集中することは少しずつ成果があらわれてきた。

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組み (10月)	最終評価 (2月)
1	国語	学 学習意欲は高く、発言も多い。ノートの書き方も習得している。平仮名は、全児童が習得している。	・文を書くときに、促音や拗音を間違えたり、抜けたりしてしまう児童が多い。 ・自分の考えを文にできず、書き進められないことがある。	・宿題に促音や拗音のプリントを出し、繰り返し復習できるようにする。 ・ペアでの発表を積極的に行う。	・復習のプリントをやったり、文の読み直しさせたりして、自分で間違いに気付けるようにした。まだ誤字は多く、今後も文を書いたら見直しする活動を習慣にしていけるように、指導する必要がある。 ・ペアでの話し合いを積極的に取り入れ、自分の考えを言えることが多くなった。日記を書いたり、文を書いたりする活動を多く取り入れ、自分の思ったことを表現できる児童が増えた。
	算数	学 学習意欲は高く、計算練習などには進んで取り組む。しかし、導き出した答えを言葉や図や絵で表現したり、説明したりするのが苦手である。	・自分の考え方を友達に話したり、ノートに書いたりすることに課題がある。 ・計算間違いが多い。	・ICT機器を活用し、具体物を動かしたり、考えが上手に書けている児童のノートを写したりして、書き方を理解していけるようにする。	・具体物を動かしたり、図に描いたりすることで、答えを導き出し、説明できる児童が増えた。しかし、まだ、答えを導き出すところまで到達しない児童もいる。既習を大事にし、問題解決ができるようにする。また、考え方を説明する活動をペアで多く取り入れ、説明する活動を増やす。 ・計算間違いは、落ち着いてゆっくり取り組むことで減ってきた。しかし、既習の計算間違いが見られた。復習を兼ねて確認を取り入れていく。
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組み (4月)	中間評価・追加する取組み (10月) → 最終評価 (2月)
2	国語	学 平仮名及び片仮名の読み書きについては、全ての児童が習得している。漢字は、ほぼ習得できているが、文脈に合わせて文章中で漢字を使うことが難しい児童がいる。1年生の時に週2回日記を書いていたので、思ったことや考えたことを文章で書く経験は比較的多い。	・漢字を文や文章の中で適切に使用することに課題がある。 ・文章を書いて読み返しても、自分自身でどのように推敲すればよいか分かっていない。表記の間違いに気付くことが難しい。	・漢字ドリルノートを活用して、漢字を使った文章に慣れさせる。授業中や宿題で、漢字を使った短文作りをさせる。 ・ICT機器を活用し、分かりやすく文章表現の仕方を提示していくなど、思ったことや考えたことを文や文章で表すための書き方を指導する。	・漢字ドリルを使って漢字の理解に繰り返し指導してきた。作文を定期的に行い、添削を重ねた結果、漢字の理解や活用力が高まった。 ・実物投影機で具体的な文章を投影して、見本を示しながら指導したことで、全体的に表現力豊かに文章が書けるようになってきた。ワークシートにも短時間で文章が書くことのできる児童が多くなってきた。
	算数	学 繰り上がりの加法や繰り下がりの減法は、全ての児童が習得している。 計算の仕方を絵や図、言葉を使って適切にノートに書くことが課題となる児童が多い。 時計の読み方に課題がある児童がいる。	・計算の仕方について、一部の児童は操作や言葉などを用いて表現することに課題がある。 ・時計の読み方のきまりを理解できていない児童がいる。	・算数科における正しいノート記述の技能を身に付けさせる。ノートを画面に投影して見本を常に示すようにする。 ・日常の中で、時計を読む機会を繰り返し与え、継続的に習熟を図る。	・ノート指導を繰り返し指導してきたことで、位をそろえるなどのきまりを守り、短い感想を添えてノートを仕上げられるようになってきた。 ・時計の読み方はまだ課題が残る。引き続き日常生活を通じて継続的に指導していく。
3	国語	調 前年度の学力定着度調査の結果、「文章を書く」、「話す聞く」では目標スコアを下回っている。 学 自分の考えを文章にすることはできるが、表記の誤りが多い。「話す」では、自分の思いはあるが、その内容を相手に伝えることが難しい。	・作文などでは、文脈にあった漢字を使うことに課題が見られる。また、誤った表記に気付くことができない。 ・「話すこと」では、相手に自分の気持ちを伝えることが難しい児童が多い。「聞くこと」では、姿勢や相手に向けて聞くなどの基礎・基本に少し課題がある。	・漢字ノートを使い、漢字を使った文章に慣れさせ、文脈に合った漢字を使えるようにする。 ・話す・聞く活動を授業に多く取り入れ、「聞き方名人」「話し方名人」のポイントを常に意識させながら、発表活動を活発化させる。	・国語の「漢字の広場」の短文作りを使い、文脈に合った漢字を使う練習を行っている。今後も継続をしていく。 ・朝学習に「きくきくドリル」を行ったことで、相手を意識して聞こうとする姿勢が見られるようになった。ペアトークやグループトークを通し、相手に自分の考えを伝えられるようになってきた。 ・区の学力調査の結果では、「話す・聞く」「読む」「言語」では、目標値よりやや上回った。「聞く」では、朝学習の「きくきくドリル」で、メモの取り方を学んできた結果だと考える。一方で、「書く」では目標値を下回る結果となった。 ・「書く」では、文字数や段落の指定がある問題に課題があることが分かった。条件に合わせた言葉選びや、「はじめ」「中」「おわり」といった基本手な文章校正を身に付けさせる。

	算数	<p>【調】 前年度の学力定着度調査の結果、「時間と長さ」が目標スコアを下回っている。</p> <p>【学】 工夫して計算をすることや、単位の換算などの定着に課題がある児童が多い。また、自分の考えをノートに表現することが苦手な児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単位換算に課題が見られる。 ・課題に対する考えをノートに表現することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や家庭学習などを使い、継続的に復習をし、単位に関する理解を深めていく。 ・問題を解く過程を発表し合い、互いの表現の仕方を学び合う場を設定する。ICT機器や具体物などを用いて多角的に考えられるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位換算は、家庭学習や算数授業で継続的に復習を行い、理解を深めている。今後も継続をしていく。 ・ICTを使い、互いの考えを共有することで、ノートに自分の考えを表現することができるようになってきた。また、相手の考えと比較して自分の考えを発表する姿も見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区の学力調査の結果によると、基礎力は定着してきたが、活用力が目標値スコアよりも下回る結果となった。数学的な考え方では、自分なりに考え共有をしたが、発展させて活用するまでには至らなかった。 ・課題である活用力を伸ばすためには、フォローアップシートに全体で取り組む。課題を解決するために活用する、考え方を確認しながら、自分で出来た、分かったという意欲を高めていく必要がある。
4		<p>【調】 前年度の学力定着度調査の結果、全体的に目標スコアを上回っている。</p> <p>【学】 相手の気持ちを考える児童が増えてきたが、それを言葉にしたり、文章にしたりすることが苦手な児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた文章を自分で読み返す習慣が身に付いていない。 ・作文で比喻や形容詞、副詞などを取り入れることがなく、文脈に合致した適切な言葉を使うことに課題がある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書いた後の読み返しの徹底、声掛けを継続的に行う。 ・作文の際の誤った表記を指摘して、繰り返し丁寧に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「水道水について」などの作文を通して、読み返す習慣は付きつつあるが、読点の打ち方や誤字脱字の訂正には課題があるため、継続的に指導を行う。 ・友達の発表を聞き、それに対して自分の考えを発表する機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区学力定着度調査の結果は、標準スコアを下回ったが、漢字の読み・書きの正答率では、区の平均を上回った。日々の漢字練習の反復と誤字や字形のを整えて書いてきた成果と言える。 ・課題は、作文の標準スコアが下回ったことである。自分の考えを文章にする力を付けていくことや文章を書く機会を増やし、文章の読み合いをする中で優れた文章を共有させるようにする。
	算数	<p>【調】 前年度の学力定着度調査の結果、全体的に目標スコアを上回っている。</p> <p>【学】 算数への関心や意欲が低い児童が多く、基礎的な知識の活用に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の誤りを見付け、それを説明するなど、数学的な考え方ができない児童が多い。 ・大きな数の位取り記数法の理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解答に至る過程を大切にできる態度が身に付くよう、友達との関わりを取り入れた授業を行うようにする。 ・一つの問題にも様々な見方があることに気付かせ、ICT機器も活用しながら問題解決的な授業を継続して行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、考えた過程を発表させる機会を多くしたことで、友達との関わりが増えた。 ・問題解決的な学習に取り組んだ結果、ノートに自分の考えの過程を書くようになった。今後は、より深く考えさせるように指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区学力定着度調査の結果は、標準スコアを下回った。大きな要因は、図形領域の正答率が、目標値を下回ったことにある。デジタル教材を用いて視覚でとらえやすくする工夫をしたり、図形の実物に触れての個別指導を取り入れていく。 ・わり算・計算のきまりの正答率は、目標値を上回り、基礎的な力は付いたと評価できる。
5	国語	<p>【調】 前年度の学力定着度調査の結果、標準スコアが5ポイント上昇した。</p> <p>【学】 作文は4年次に多く取り組んできたが、自由な書き方や表現方法が多く、文章表現の基礎・基本に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作文の書き方が自由で原稿用紙の使い方や起承転結等の構成も身に付いていない。 ・友達と話し合ったり、教え合ったりする話し合い活動が経験としてかなり少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文や日記、詩など表現方法の基礎を再度理解させ、たくさんの表現活動を体験させるようにする。 ・話す、聞くから発表活動に至るまで、児童同士が話し合う言語活動を積極的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文や日記、学習感想など、短時間で伝えたいことを書く練習を繰り返すことで、文章を書く力が少しずつ身に付いてきた。 ・話し合い活動では自分たちでテーマを設定し、問題提起したりしながら協議をし、話し合う内容が充実してきた。 ・東京都学力調査の結果では、「読み解く力に関する内容」では平均を下回っていたので、読解力を高めるために問題練習を積極的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区学力定着度調査の結果は、標準スコアを上回った。作文では目標値を上回ったことから、継続して作文や日記など多くの表現活動に取り組んできた成果がたと考えられる。 ・日常的に話し合い活動を多く取り入れてきた効果もあり、聞き取りの問題でも目標値を大きく上回った。
	算数	<p>【調】 学力定着度調査の結果、数量関係、図形、数と計算、活用、基礎において、目標値を上回る結果となったが、前年度より標準スコアが0.2下がった。D層の底上げにつなげられなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の解答や正答ばかりが優先され、そこに至る過程が重要視されなかったり、友達のよい意見を聞いたり受け入れたりする学び合いに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解く過程を大切に、友達の考えやよさを認め合う場面を増やしていくようにする。また、図や数直線、具体物操作等、ICT機器も活用して児童が発表し合い、考えを深める授業へ改善をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より早く正確に問題解決するためにはどうしたらよいか、という視点で問題演習に取り組んできた。問題解決に取り組むとき、丁寧に図や数直線を描くことにも取り組んできたところ、正確に立式する力が付いてきた。 ・東京都の学力調査では「解決する力」が平均を下回っていたので、今後も多くの問題に取り組ませるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区学力定着度調査の結果は、標準スコアを上回った。基礎的な力は全体に身に付いてきているが、活用する力に個人差がある。問題解決する力も付いてきたが、次は説明する力や表現する力もさらに鍛えていく必要がある。 ・正答率が下回っている児童もいるので、学習単元を既習事項と関連させ、適宜復習に取り組みながら指導していく。

6	国語	<p>【調】 学力定着度調査の結果、ほとんどの観点で目標値を上回っているものの「漢字を書く」と「作文」は下回っている。</p> <p>【学】 自分の考えたことを簡単に書くことはできるが、根拠を明確にして書いたり考えを詳しく書いたりすることは苦手である。</p>	<p>・漢字を文や文章の中で適切に使用することに課題がある。</p> <p>・自分の考えを書くことに苦手意識があり、自分の考えを文章で表現することが難しい児童が多い。</p>	<p>・漢字ドリルノートを活用し、毎日漢字を書く学習に取り組みさせる。また、漢字小テストを活用し、新出漢字を確実に身に付けさせる。</p> <p>・自分の考えを書く活動を授業の中に必ず入れる。また、考えの根拠を明確にすることを意識させ、文章中の言葉に着目するよう指導する。</p>	<p>・毎日漢字練習に取り組みせ、平均週1回満点を目指した漢字小テストに取り組みさせた結果、新出漢字が定着してきた。</p> <p>・考えの根拠を明確にするために、文章にサイドラインを引いたり自分の体験を振り返ったりさせた。事実と感想・意見を分けて書こうとする態度が身に付いてきた。今後も継続し、段落構成を意識させて書くよう指導する。</p>	<p>・区学力定着度調査の結果は、標準スコアを下回った。漢字を書く問題が目標値を下回っており、新出漢字に取り組みさせたものの定着させることができなかった。</p> <p>・意見文を書く問題と作文の問題は、目標値を上回った。根拠を明確にさせたり段落構成を意識させたりした成果だと考える。</p>
	算数	<p>【調】 学力定着度調査の結果、ほとんどの観点で目標値を上回っているものの「体積」と「合同」は下回っている。</p> <p>【学】 三角定規やコンパスを正確に使って線をひくことが難しい児童がいる。また、図形に関する既習事項の定着していない児童が多い。</p>	<p>・作図をする際、三角定規やコンパスを正確に扱えない児童がいる。</p> <p>・図形の名称、面積や体積の公式など、既習事項の定着に課題がある児童が多い。</p>	<p>・道具を正確に扱えるよう、机上整理などの学習環境を整え、ICT機器を活用し、道具の扱い方を具体的に示していく。</p> <p>・授業内容と既習事項との関連を教師が意識し、授業の中で既習事項の復習を取り入れながら学習を進める。</p>	<p>・机上整理をするよう声掛けするなど学習環境を整えるよう指導した。三角定規やコンパスを上手に使える児童が増えた。</p> <p>・面積の公式などの既習事項を確認しながら授業を進めた。定着ができていなかった児童も繰り返し指導し、できるようになった。</p>	<p>・区学力定着度調査の結果は標準スコアがやや下回った。図形領域で目標値を大きく下回った。対称な図形や拡大図・縮図の理解に課題が残った。</p> <p>・量と測定領域で目標値を上回った。面積や体積の公式など、既習事項を振り返りながら学習させた成果が見られた。</p>
音楽	学	<p>すすんで音楽の学習活動に取り組む児童が多い。</p> <p>・歌唱領域では歌声を響かせるための技能に課題がある児童がいる。</p> <p>・器楽領域では学年が上がると個人差が大きくなる傾向にある。</p> <p>・鑑賞領域では自分の感じたことを発言することができる。しかし、音楽の諸要素と関連付けて発言したり記入したりすることに課題がある。</p>	<p>・頭声的な発声で歌うことができる児童が多いが、のどに力が入ってしまう児童がいる。</p> <p>・楽譜の難易度が上がると苦手意識を感じてしまう児童がいる。</p> <p>・鑑賞して感じたことを自由に述べることはできるが、文章で表現したり、音楽の諸要素と関連付けて表現したりすることが難しい児童がいる。</p>	<p>・授業の導入として、体をほぐす体操や発声練習を取り入れ、声を響かせるようにする。</p> <p>・階名唱を十分に行い、楽譜を数小節ごとに区切るなどスモールステップで行う。ICTを活用し、楽譜を拡大するなど視覚的に分かりやすくする。</p> <p>・音楽の諸要素を音楽室内に掲示し、児童の発言を教師が諸要素と関連付けて整理していく。</p>	<p>・歌唱指導では発声指導のポイントを示すようにし、技能の向上のために必要なことを視覚化したり、できている児童への声掛けをしたりした。姿勢の保持ができるようになってきたが、頭声的な発声については引き続き指導していく。</p> <p>・楽譜を練習番号ごとに区切って丁寧に指導し、階名暗唱をすることで器楽活動にスムーズに取り組めるようにした。</p> <p>・鑑賞領域では感じたことと気付いたことを分けて考えられるように、板書の工夫を行った。低学年でも掲示してある音楽の諸要素を活用して発言することが増えた。</p>	<p>・高音部では頭声的な発声で歌うことができている。息を飛ばす方向を考えていくようにする。息をコントロールしたり、スピードを調整したりする方法を伝えるようにする。</p> <p>・器楽では個人の技能面に応じたパートの選択をすることで意欲的に取り組めた。初めて扱う楽器に興味関心が高く楽しんで活動できた。速度や音のバランスなどの工夫ができるようにする。</p> <p>・音楽の諸要素を活用し、音楽の言葉をつかった発言が増えているが、音の強弱と高低、リズムとテンポなどが混同する児童もいる。理解を深められるようにする。</p>
		学	<p>造形活動に興味をもち、楽しく活動する児童が多い。</p> <p>・道具や材料の扱い方についての経験や技能に差がある。</p> <p>・材料や道具に触れ、ものをつくることを楽しんでいるが、つくりながら発想を広げることが難しい。</p> <p>・鑑賞する活動では作品を見ること、感じたことを話すことができるが、表現の意図や、特徴について考えることはできていない。</p>	<p>・自分の表したいことが思ったように表せず、苦手意識をもってしまう児童がいる。</p> <p>・決まった手順で作っていくことに満足し、自発的に工夫や改善に取り組むことが難しい児童がいる。</p> <p>・作品を見て感じたことを表現することはできるが、その理由を造形的特徴から説明することが難しい。</p>	<p>・基本的な道具の扱いを繰り返し行う、小作品に数多く取り組むなど、道具や材料を扱う経験を積ませる。</p> <p>・扱う材料や用具に幅をもたせ、自分の表現に合わせて選んだり、試したりする時間を確保する。</p> <p>・鑑賞の活動では、自分や友だちの作品や、身近な美術作品について、色、形、表現方法などの造形的特徴から説明する活動を取り入れる。</p>	<p>・基本的な道具の扱いについて、引き続き行い、身に付いたことについては発展的に扱い、向上させていく。</p> <p>・自分で材料や、道具を選んだり、試したりすることで作りながら感じたことを表していくなど表現が広がってきている。</p> <p>・鑑賞の活動では、造形活動の中でも鑑賞し合える機会を作っていく。</p>
図工	学	<p>造形活動に興味をもち、楽しく活動する児童が多い。</p> <p>・道具や材料の扱い方についての経験や技能に差がある。</p> <p>・材料や道具に触れ、ものをつくることを楽しんでいるが、つくりながら発想を広げることが難しい。</p> <p>・鑑賞する活動では作品を見ること、感じたことを話すことができるが、表現の意図や、特徴について考えることはできていない。</p>	<p>・自分の表したいことが思ったように表せず、苦手意識をもってしまう児童がいる。</p> <p>・決まった手順で作っていくことに満足し、自発的に工夫や改善に取り組むことが難しい児童がいる。</p> <p>・作品を見て感じたことを表現することはできるが、その理由を造形的特徴から説明することが難しい。</p>	<p>・基本的な道具の扱いを繰り返し行う、小作品に数多く取り組むなど、道具や材料を扱う経験を積ませる。</p> <p>・扱う材料や用具に幅をもたせ、自分の表現に合わせて選んだり、試したりする時間を確保する。</p> <p>・鑑賞の活動では、自分や友だちの作品や、身近な美術作品について、色、形、表現方法などの造形的特徴から説明する活動を取り入れる。</p>	<p>・基本的な道具の扱いについて、引き続き行い、身に付いたことについては発展的に扱い、向上させていく。</p> <p>・自分で材料や、道具を選んだり、試したりすることで作りながら感じたことを表していくなど表現が広がってきている。</p> <p>・鑑賞の活動では、造形活動の中でも鑑賞し合える機会を作っていく。</p>	<p>・基本的な道具の扱いについて発展的な取り組みを行うことで意欲や技術が向上した。</p> <p>・自分の表現したいことに合わせて材料をえらんだり試したりして楽しく活動できた。さらに、つくるものの特徴や、目的についても考えて発想を広げていけるようにする。</p> <p>・制作の途中で鑑賞し合うことで自分の表現と比較し、特徴に気づけるようになった。気づきや、感じたことを言葉で表現し、鑑賞を深めていけるようにする。</p>

特支	<p>学 集中して人の話を聞くことや、自分から行動に移す力が育っていない。また、グループでの話し合い活動も苦手になっている。</p> <p>学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い一方、指先の細かい操作や、情報を処理する力に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達が話している時に、思いついたことをすぐに話してしまう傾向がある。 ・他の人の意見を聞いたり、自分の主張と調整したりすることができない。 ・指先の細かい操作や力のコントロールが難しい。 ・対象物に合わせて目を動かすことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の聞き方、発言のルール（挙手の仕方）、丁寧な話し方などを指導する。 ・1対1で相手の話を聞く(ペアトーク)活動の中で、聞く態度や相づちの打ち方の指導をする。 ・個別の学習の中で発達段階に応じた教材を用い、楽しみながら手や指を使うようにさせる。 ・継続的にビジョントレーニングを行い、目の動きをスムーズにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードを提示すると、聞く時の姿勢を意識し、話者に注目できるようになってきた。カードの提示を減らしてもできるようにしたい。 ・1対1で相手と会話する機会を継続して作り、在籍学級でもできる自信につなげる。 ・年度当初に比べて、いろいろな道具の操作ができ、物を落とさないことが増えた。 ・様々な課題を通して、いろいろな目の動きを経験させている。子どもたちが目を動かすことに慣れてきたように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生も話者への注目が続くようになり、話者がハンドサインで静かにするよう伝えたことに気がつけるようになった。 ・順番などを決める際にも、「僕は～がいいけど、〇〇くんはどう？」などと、相手の意見を聞けることが増えている。来年度も継続して指導したい。 ・年度当初に比べて、指先をコントロールする力が向上し、丁寧に字を書ける児童が増えた。 ・継続的な指導によって、対象に注目し続けたり、白板と手元の間で視線を動かすことがスムーズになったりした児童が増えている。
----	---	---	--	--	---

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。